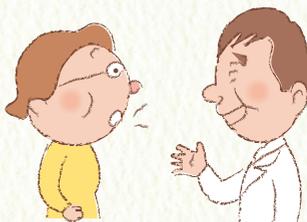


ドパミン神経の状態をみるSPECT検査

検査の受け方

検査前

- 診察を受けます
疑問や不安がありましたら、納得がいくまで確認しておきましょう。
- 検査の予約をしてください
検査に使う薬は検査当日しか使えませんので、確実に来られる日に予約してください。
- 注意事項、指示を確認しておきましょう



検査当日

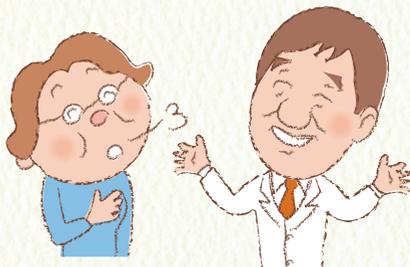
- 検査室に入り準備します
- 検査に必要な薬を注射します
- 3~6時間待ちます
- 検査をします



装置のベッドに仰向けに寝ている間に検査します。頭の周りをカメラが回ったり、トンネルのようなカメラの中に入れたりして撮像します。検査中は頭を動かさないでください。約30分で終わります。もし気分が悪くなったら我慢せずお申し出ください。

検査後

- 当日、または後日、担当医から結果の説明を聞きます



医療機関名

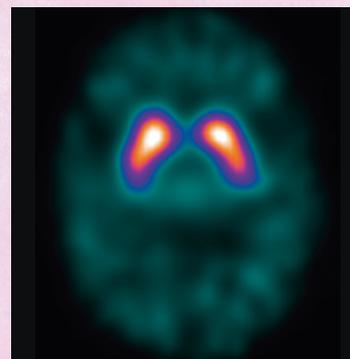
nihon
medi+physics

提供：日本メジフィジックス株式会社
URL <http://www.nmp.co.jp/>

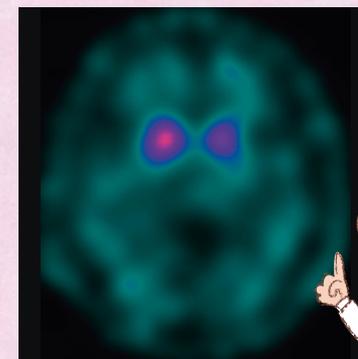
2015.8月作成
(TA-1508-G03)

レビー小体型認知症の 診断と新しい画像検査

新しいSPECT検査



アルツハイマー型認知症



レビー小体型認知症

画像提供：横浜新都市脳神経外科病院

レビー小体型認知症は
どんな病気？

新しい画像検査は
何を調べるの？

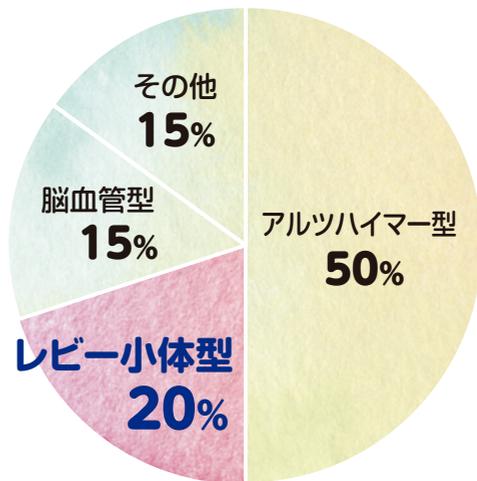


監修：横浜市立大学名誉教授 小阪 憲司

Q レビー小体型認知症はどんな病気？

三大認知症の1つといわれています。

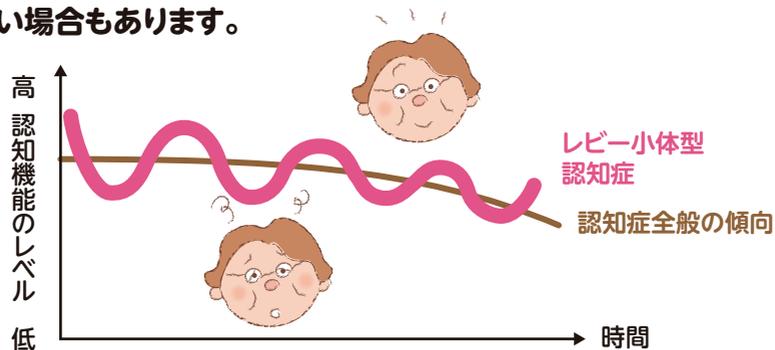
レビー小体型認知症はアルツハイマー型認知症に次いで2番目に多い認知症で、脳血管性認知症とともに「三大認知症」といわれています。認知症とひとくくりにはされがちですが、それぞれ原因は異なり、症状の特徴や進行の仕方にも違いがあります。



レビー小体型認知症サポートネットワーク HP より引用 (http://dlbsn.org/what_dlb.html)

見逃されやすい、レビー小体型認知症

一般的な認知症は記憶力や理解力などの認知機能が徐々に低下していきますが、レビー小体型認知症は認知機能が良いときと悪いときが波のように変化します。しっかりしているときもあるため「病気」と思われなことがあることがあります。また、**初期では認知機能の低下が目立たない場合もあります。**



幻視や認知の変動、睡眠時の異常行動、パーキンソン症状などが特徴的です。

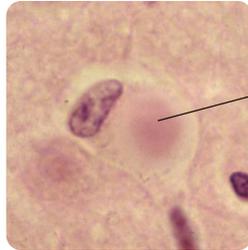
- 認知機能の低下**
記憶力や理解力、判断力などが低下します。
- 認知の変動**
日や時間帯によって頭がはっきりしているときとボーッとしているときが入れ替わります。
- 幻視**
人や小動物など、実際にはいないものが本人にはありありと見えます。
- パーキンソン症状**
手足がふるえたり、筋肉がこわばり、動作が緩慢になったりします。
- 睡眠時の異常行動**
睡眠中に大声で叫んだり、暴れたりします。
- 自律神経症状**
立ちくらみ、便秘など、体に不調をきたします。
- 抑うつ症状**
気分が落ち込み、悲観的になり、意欲が低下します。

レビー小体型認知症では、さまざまな症状がみられます。症状のあらわれ方にも個人差があるため、**パーキンソン病やうつ病、アルツハイマー型認知症**など他の病気と思われやすく、**症状だけでは判断が難しい病気**です。

Q なぜレビー小体型認知症になるの？

脳に「レビー小体」というかたまりができ、認知症になります。

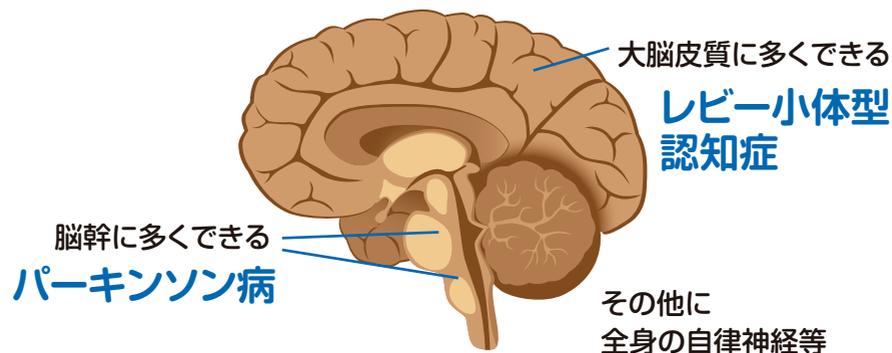
脳の神経細胞に「レビー小体」というたんぱく質のかたまりができます。レビー小体が神経細胞を傷つけ壊してしまうので、結果として認知症になります。



レビー小体

「レビー小体」は全身の神経細胞にできるため、**レビー小体病**という全身病と考えられます。

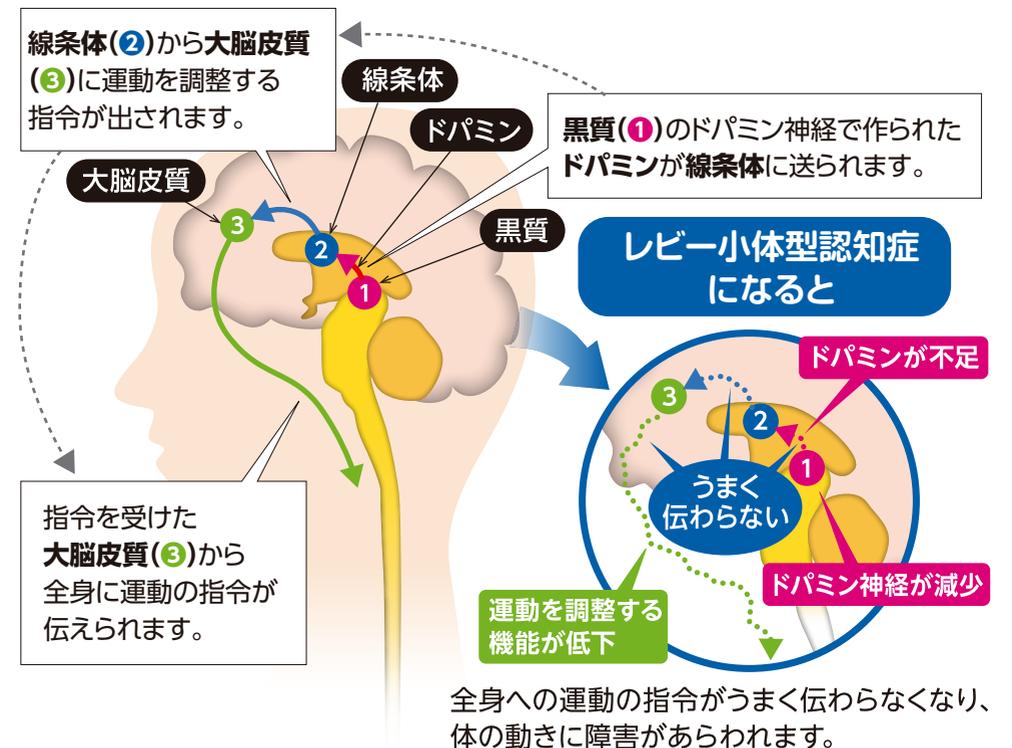
レビー小体は脳だけでなく、全身に張り巡らされた神経にもできます。どこの部位に多くできるかによって症状が異なるため、別の病気と思われるのですが、「レビー小体病」として総称されています。



また、ドパミン神経の減少によって体の動きに障害があらわれます。

レビー小体型認知症では脳のドパミン神経が壊れます。ドパミン神経は脳が全身の筋肉に運動の指令を出すのに必要な神経伝達物質ドパミンを作る神経です。そのため、ドパミン神経が壊れるとドパミン量が減って体がうまく動かせなくなります。

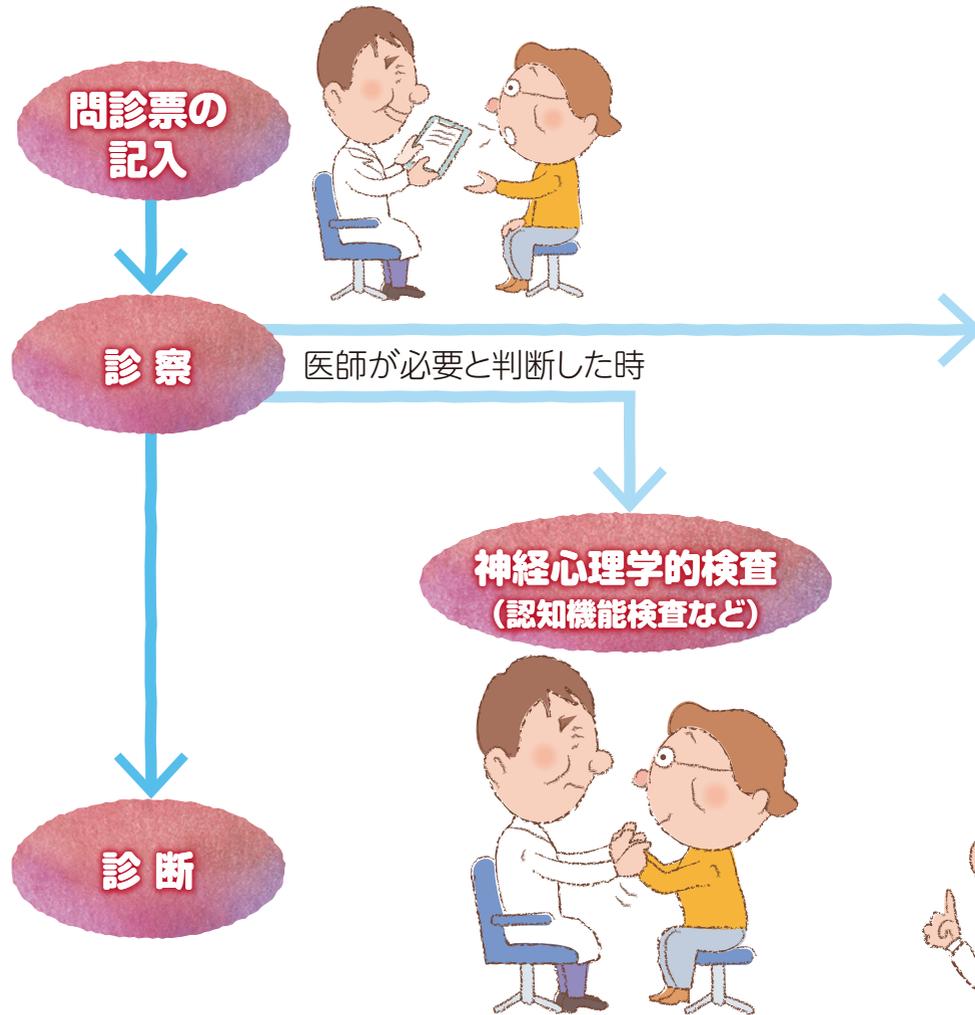
体を動かすときの脳の働き



Q どのように診断するの？

認知機能検査や画像検査などで診断します。

まず、医師が家族やご本人に症状や困ったことなどについて話をよく聞きます。その上で、必要な検査を行い、検査結果を合わせて診断します。



画像検査



MRI検査

脳の形を見ます。

脳が萎縮しています。



アルツハイマー型認知症



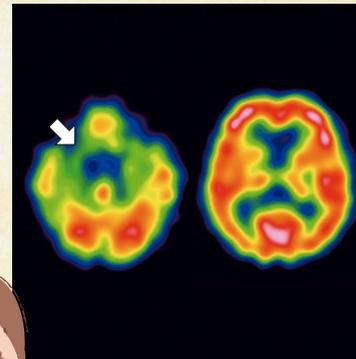
レビー小体型認知症

脳の萎縮が目立たない場合があります。

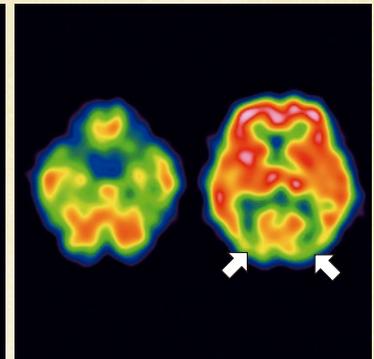


スペクト脳血流SPECT検査

脳の血流を見ます。(⇒)で血流が低下しています。



アルツハイマー型認知症



レビー小体型認知症

多い
↑
血流量
↓
少ない



MRI や脳血流の検査では、健康な人や他の病気との区別が難しい例もあります。

さらに新しい画像検査があります。

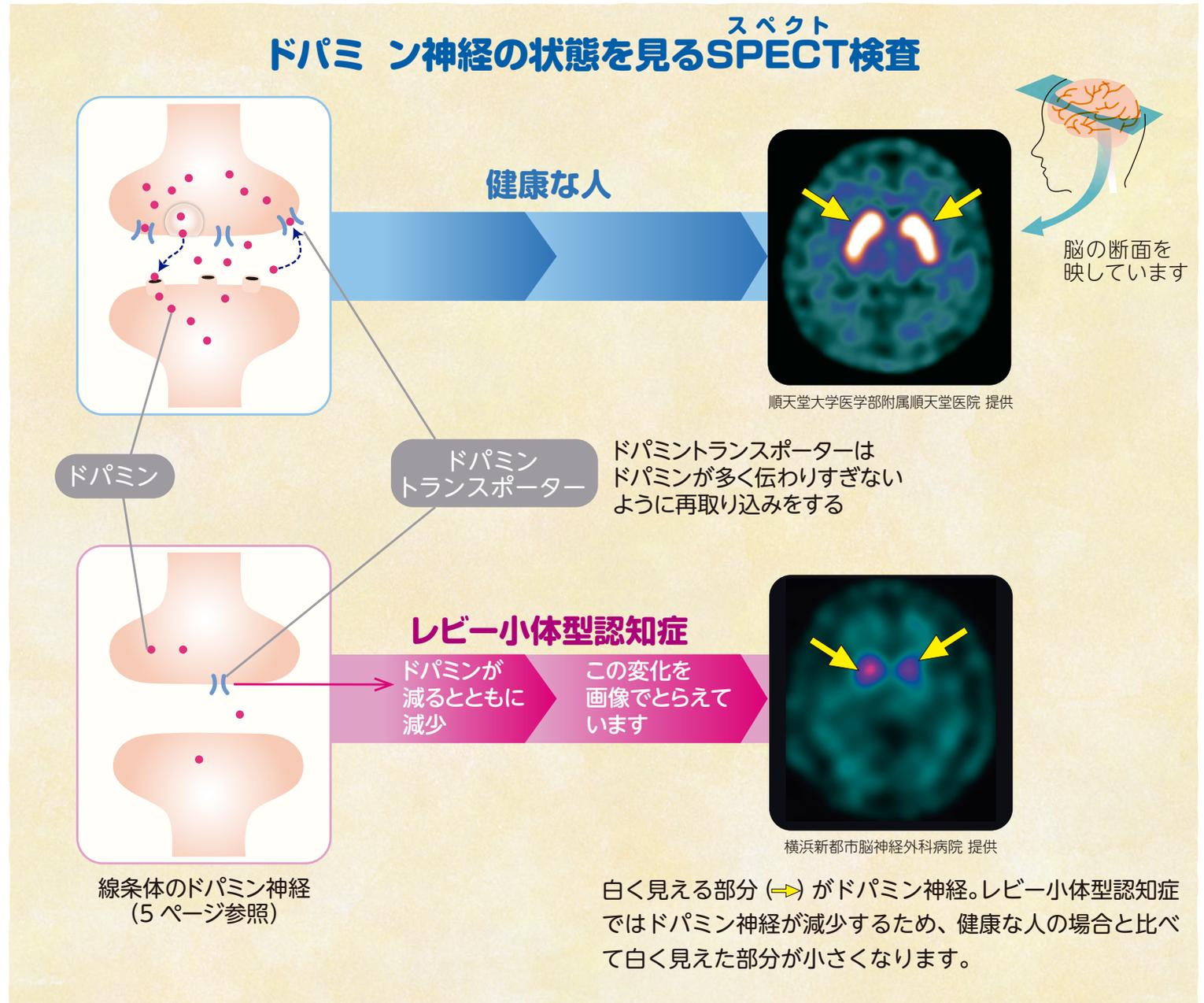
Q 新しい画像検査では、何を調べるの？

ドーパミン神経が壊れているかどうかを見ます。

従来の検査では調べられなかったドーパミン神経の状態を、画像で確認します。

新しい **スペクト** SPECT 検査の画像と仕組み

ドーパミン神経には、ドーパミンを再び取り込み、ドーパミン量を調整する部分（ドーパミントランスポーター）があります。ドーパミン神経が壊れると同じくドーパミントランスポーターが減少します。この変化を画像でとらえているのです。



Q どういうことが、わかるの？

レビー小体型認知症の早期発見、 他の認知症との区別がしやすくなります。

今までの画像検査だけではわかりにくかったレビー小体型認知症の早期発見に役立つ情報が得られます。また**アルツハイマー型認知症との区別がつけやすくなります。**

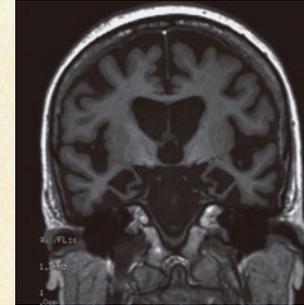
介護の仕方や注意点が違うため 認知症の種類を確認することが大切です。

認知症の種類によって症状の特徴や進行には違いがあるので、治療や症状に対する介護の仕方や生活の注意点なども違ってきます。レビー小体型認知症と診断がつけば、それぞれの症状に対する薬を用いて症状を緩和し、病気の進行を抑える治療が行えます。また、適切な介護で、ご本人の生活の質を高めることにつながります。

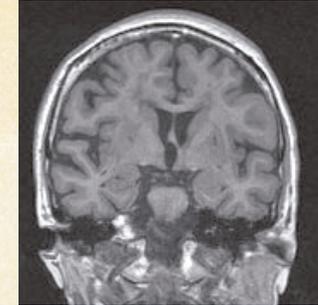


MRI 検査

アルツハイマー型認知症



レビー小体型認知症

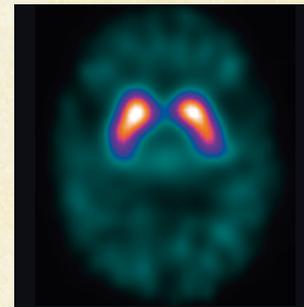


レビー小体型認知症の人は、脳の萎縮が目立たないことがあるので健康な人との区別がほとんどつかない場合があります。

画像提供：横浜新都市脳神経外科病院

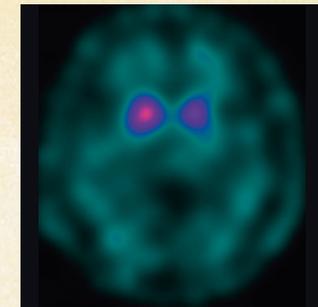
スペクト ドパミン神経の状態を見る SPECT 検査

アルツハイマー型認知症



ドパミン神経が
減少してない

レビー小体型認知症



ドパミン神経が
減少している

レビー小体型認知症では、ドパミン神経の減少がはっきりとわかります。

画像提供：横浜新都市脳神経外科病院